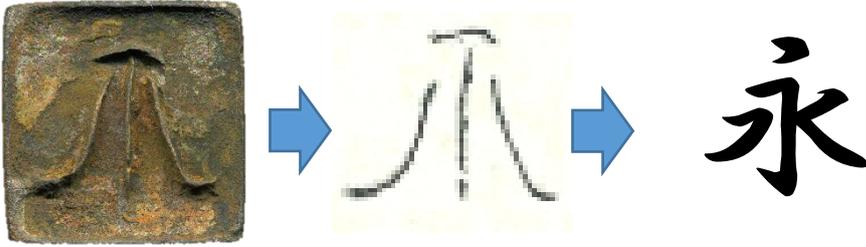


読むのがむずかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい 1	答えは②の「縄文時代」です。 実際にこの時代に草津に人が住んでいたということの証拠となる「住居の跡」などは見つかっていませんが、市内の野路岡田遺跡から、縄文時代中期末～後期頃の貯蔵用の穴とみられる土坑が検出されています。
こたえ ②	この発見により、草津に人が住んでいたとは明らかではないですが、人が草津市域で活動していたことは確かになりました。

もんだい 2	答えは③の「銅印」です。 中畑遺跡の土坑から見つかった、銅製の印鑑です。印の形や、同じ土坑から見つかった土器などから、平安時代中頃よりも古い時代につくられたものだと考えられています。
こたえ ③	印面には「𠄎」という1字があり、この文字は様々な検討の結果、「永」という文字である可能性が高いとみられます。 

もんだい 3	答えは①の「東海道」です。 草津は東海道と中山道の合流・分岐点ですが、中山道の始点・終点にあたるため、中山道の宿場町ではありません。
こたえ ①	東海道の宿場町は、江戸（東京）・日本橋から京（京都）・三条大橋までの間に置かれた宿場を指し、中山道の宿場町は江戸・日本橋から草津までの間に置かれた宿場のことを指します。 そのため「草津宿」は東海道の宿場であるといえます。

もんだい 4	<p>答えは③の「矢倉・長束」です。</p> <p>矢倉のサンヤレ踊りは2年に1度、若宮八幡宮や立木神社で奉納されます。</p> <p>長束のサンヤレ踊りは3年に1度、春日神社や印岐志呂神社で奉納されます。</p> <p>つまり、サンヤレ踊りが伝わる7つの地域すべてが踊りを奉納するのは、実に6年に1度の機会しかないのです。</p>
こたえ ③	

もんだい 5	<p>答えは①の「連歌」です。</p> <p>連歌とは室町時代に流行した文芸で、複数人が集まって、ひとりが上の句「五・七・五」句を詠み、別の人がある句にあった下の句「七・七」句を詠み、また別の人がある句を詠み…とどんどんつなげていくことを楽しむものです。複数人で100句つなげることを目的とした「百韻連歌」や、36句つなげる「歌仙連歌」などがあります。</p> <p>連歌は厳密なルールによってつくられる文芸だったため、貴族や高僧などの間で親しまれましたが、これを色々な人が楽しめるように、ルールをやわらげ、トンチやユーモアを利かせた新たな連歌「俳諧連歌」を生み出したとされるのが、山崎宗鑑です。この俳諧連歌の誕生により、庶民などの間にも連歌は広がり、俳諧連歌が元となり、江戸時代に俳句や川柳が誕生したといわれています。このため山崎宗鑑は「俳諧の祖」としても知られています。</p>
こたえ ①	

もんだい 6	<p>答えは③の「10月」です。</p> <p>上笠天満宮講踊は、毎年10月下旬に上笠天満宮（上笠一丁目）で奉納される民俗芸能です。当日は、花笠を被り軍配<small>ぐんぱい</small>を手にした「シンボウチ」を中心に、「太鼓打ち」や「踊り子」が踊りを演じます。</p> <p>①の「2月」には老杉神社（下笠町）で「老杉神社の頭屋行事<small>とうやぎょうじ</small>」が、②の「9月」には伊砂砂神社（渋川一丁目）で「渋川の花踊り」が行われます。いずれも、県選択無形民俗文化財です。</p>
こたえ ③	

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp